

水木しげるロードにおける観光

ーリニューアル後を中心にー

2回生 秋末晋太郎

1. はじめに

境港市にある水木しげるロードは山陰有数の観光スポットであり、2010年にはNHK連続テレビドラマ小説「ゲゲゲの女房」が放送されたことにより、中四国最多の観光客入込客数を記録した。また、2018年には水木しげるロードがリニューアルオープンしたことにより、8年ぶりに300万人を突破した。本稿ではリニューアル事業を行ったことによる水木しげるロードの変化を示し、考察していく。



図1 水木しげるロードの位置
(国土地理院地図に執筆)

表1 水木しげるロードのあゆみ

年	主な内容
1993	23体のブロンズ像が設置され水木しげるロードがオープン
2003	水木しげる記念館開館
2004	妖怪ブロンズ像設置委員会がブロンズ像増設に1体100万円でスポンサーの全国公募を開始
2010	水木しげるロード2010年単年入込350万人突破
2012	水木しげる記念館リニューアルオープン
2016	JR境港駅前に「天然温泉境港夕凧の湯御宿野乃」開業
2018	水木しげるロードリニューアル完成 完成式典及び完成イベント開催

(境港市観光協会資料より作成)

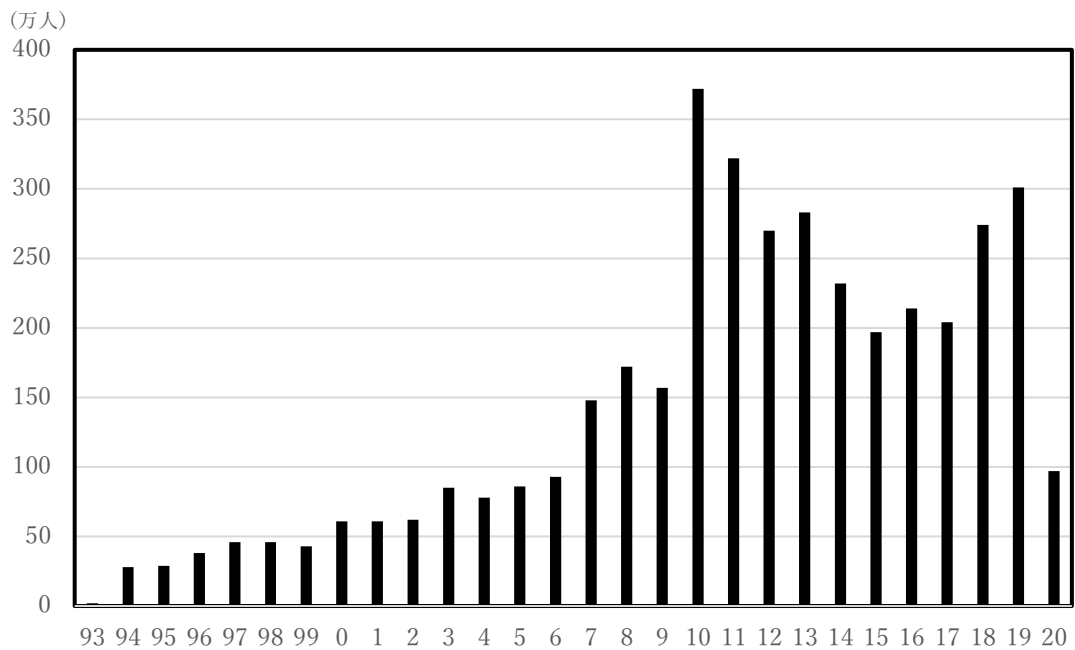


図2 水木しげるロードの入込客数の推移
(境港市役所資料より作成)

2. 水木しげるロードの成り立ち

1) 水木しげるロードとは

水木しげるロードは、図1からもわかるように、弓ヶ浜半島の北端に位置する境港市にある整備された商店街の名称である。水木しげるロードの範囲は境港駅から水木しげる記念館までの約800mである。また、観光対応型商店街であり、漫画家・水木しげるが描く妖怪の世界観をテーマとした観光名所として日本では広く認知されている。

2) 水木しげるロードのあゆみ

表 1 は水木しげるロードのあゆみについて示している。水木しげるロードは 1989 年に「緑と文化の町づくり」の一環として妖怪のブロンズ像を設置する「水木しげるロード」の整備を決めた。その後 1993 年ブロンズ像 23 体の設置をもって、水木しげるロードはオープンした。2003 年には水木しげる記念館開館、2004 年には妖怪ブロンズ像設置委員会がブロンズ像増設に 1 体 100 万円でスポンサーの全国公募を開始した。2010 年には単年入込 350 万人を突破した。2012 年には水木しげる記念館はリニューアルオープンした。2016 年に「天然温泉境港夕風の湯御宿野乃」を開業するなど、観光地としての発展を進めた。2018 年 7 月には 25 周年を迎えてリニューアル事業を完成し、ブロンズ像の数は 177 体に増加した。

図 2 は水木しげるロード年間観光客入込客数の推移を表したものである。2003 年に水木しげる記念館が開館したことにより徐々に入込客数が増加している。また、2007 年には「ゲゲゲの鬼太郎」実写版の映画が公開され、第 5 期 TV アニメがスタートしたことにより前年と比べて約 50 万人入込客数が増加していることが分かる。2009 年に入込客数が減少しているのは、7 月の山口県を中心とした「2021 年 7 月中国・九州北部豪雨」によるものと考えられる。2010 年には 3 月より、水木しげるの妻布枝の著書が NHK 連続テレビドラマ小説「ゲゲゲの女房」として放送されたことにより、年間入込客数が水木しげるロード開始以降最高の 372 万人を記録した。これは中四国地方最多観光客入込客数であり、また、境港市の人口 3 万 6000 人の 100 倍超にあたり、平均 1 日 1 万人以上が来訪したこととなる。2018 年 4 月には第 6 期 TV アニメが放送開始された。同年 7 月には水木しげるロードがリニューアルオープンしたことにより、2018 年の入込客数が前年と比べて 70 万人ほど増加していることが分かる。2019 年には前年のリニューアル効果により 2011 年以来 8 年ぶりとなる 300 万人突破を記録した。

3. リニューアル事業について

1) リニューアル事業に至った背景

水木しげるロードは当初は、境港市の住民に歩いてもらい、商店街のにぎわいを取り戻すことが目的で整備されたが、「妖怪」を用いたことが全国的にみても珍しい取り組みであるということもあり、メディアに多く取り上げられ、年々、その知名度が高まり、観光地として成長を重ねてきた。今なお多くの観光客が県内外から足を運んでいる。しかし、当初は大勢の観光客が来訪するという想定はなく、水木しげるロードの道路は、周辺住民の生活を重視した車優先の対面通行で整備されていた。拡幅された歩道の幅員も区間を通じて同一ではなく、アーケードや舗装も劣化していた。

また、2013 年 3 月には松江自動車道（松江玉造―三次東間）が全線開通し、同年 12 月には山陰自動車道（名和―赤碕中山間）が開通したことにより、境港と広島市、鳥取市方面との交通が便利となった。同年同月には、米子空港で、スカイマークの成田、神戸、茨城線が就航し、新たな路線が開設された（2015 年には休止）。さらに、2016 年 9 月には香港航空の

表2 リニューアル事業における変化

	リニューアル前	リニューアル後
車道の形状	直線	* スラローム
車道幅員	7m	5m
歩道幅員	3m	6m
大型車両	本町アーケード以外は侵入可	進入禁止
車両の通行	交互通行可	一方通行可
夜間の演出照明	なし	全線を対象に演出照明

(境港市公式 HP より作成)

*スラローム…道路を曲線にすることで車両が通行する際に振り幅を持たせることでドライバーが速度を減速させること

香港便、2020年1月には吉祥航空の上海便といった、ソウル便以外の新たな外国への定期便が開設された。この他、竹内南地区の国際フェリー（クルーズ客船含む）、国際RORO船ターミナル整備に向けた取り組みが行われるなど、当初、想定されていなかった観光客の大幅な増加や、最近の環境変化によるさらなる交流人口や外国人観光客の増加が想定される中、これらに対応した今後のロードの在り方を検討していく必要があると考え、リニューアル事業に至った。

2) リニューアル事業における変化

表2はリニューアル事業に前後の変化について記したものである。まず、車道の形状を直線からスラロームにすることで、水木しげるロードを通るドライバーが速度を減速し、歩行者が安心してロードを歩けるようになった。また、車道の幅員を7mから5mと短くし、歩道の幅員を3mから6mへと長くした。こうすることで歩行者がロードを歩きやすくなった。さらには、大型車両を本町アーケード以外は進入を許していたのが、ロード内全体を進入禁止にしていることから歩行者に優しいロードづくりを行ったということが分かる。また、夜間の演出照明がリニューアル前にはなかったのに対して、リニューアル後は夜間の演出照明を始めるなど、夜間でもロード内を楽しめるようになった。

4. 水木しげるロード内のリニューアル前後の土地利用の変化

ここでは、水木しげるロード内で飲食店や土産物店が集中する、水木しげるロードの東側に位置する松ヶ枝町地区、本町アーケード地区の2015年と2021年の地図を作成し、リニューアル事業前後の土地利用の変化について調査した。

表3 水木しげるロード内の施設の数の変化

	2015	2021
飲食店	15	17
土産物店	14	15
商店	21	21
住宅	12	10
駐車場	4	5
その他	20	22

(住宅地図境港 2015, 2021 より作成)

表3をみると、飲食店の店舗数は、2021年は2015年と比べて店舗数が2店舗増えていることが分かる。土産物店も2015年と比べて2021年は1店舗増えていることが分かる。商店の店舗数は2015年と2021年で変化がないことがわかる。また、土産物店と商店の区別として、ゲゲゲの鬼太郎に関する土産物を全面的に押し出しているかそうでないかで判断し、全面的に押し出している所を土産物店、そうでないところを商店とした。住宅の数を見ると2021年は2015年と比べて住宅の数が減っていることが分かる。また、駐車場は2015年と比べて2021年には1つ増えていることが分かる。

2015年の図3から分かることは図の中央部に土産物店が多いということである。飲食店は水木しげる記念館側に多く立地していることが分かる。住宅は図の中心部にはほとんど立地していないことが分かる。商店は全体的にまんべんなく立地していることが分かる。

2021年の図4から分かることとしては、土産物店は図の中心部に多くみられるということである。飲食店は2015年と比べると分布が広がり、全体的にまんべんなく立地していることが分かり、重要な変化であると考えられる。商店や住宅は図の中心部以外に多くみられることが分かる。

次に図5は、この地区で重要と考えられる土産物店と飲食店の2015年と2021年の変化を示している。図5の凡例のうち、「変化土産屋」とは、2015年には土産物店以外の建物であったが、2021年には土産物店になっている建物を指している。「存続土産屋」とは2015年から2021年にかけて変わらず土産物店である建物を指している。「存続飲食店」とは2015年から2021年にかけて変わらず飲食店である建物を指している。「新規飲食店」とは2015年の時は空き地となっていた場所に、2021年には飲食店になっている建物を指している。

「変化飲食店」とは2015年の時は飲食店以外の建物であったが、2021年には飲食店になっている建物を指している。

図5から分かることは、「新規飲食店」は図の東端、西端の方に見られるということである。この理由は水木しげるロードを訪れた観光客の目に入りやすく、人を集めやすいからであると考えられる。また、「変化飲食店」は図全体にまんべんなくみられることが分かる。すなわち、飲食店が対象地区のロード全体に広がっていることが確認できる。



図3 水木しげるロード（松ヶ枝町・本町）の土地利用（2015年）
 （住宅地図2015 境港市より作成）



図4 水木しげるロード（松ヶ枝町・本町）の土地利用（2021年）
 （住宅地図2021年境港市及び現地調査より作成）

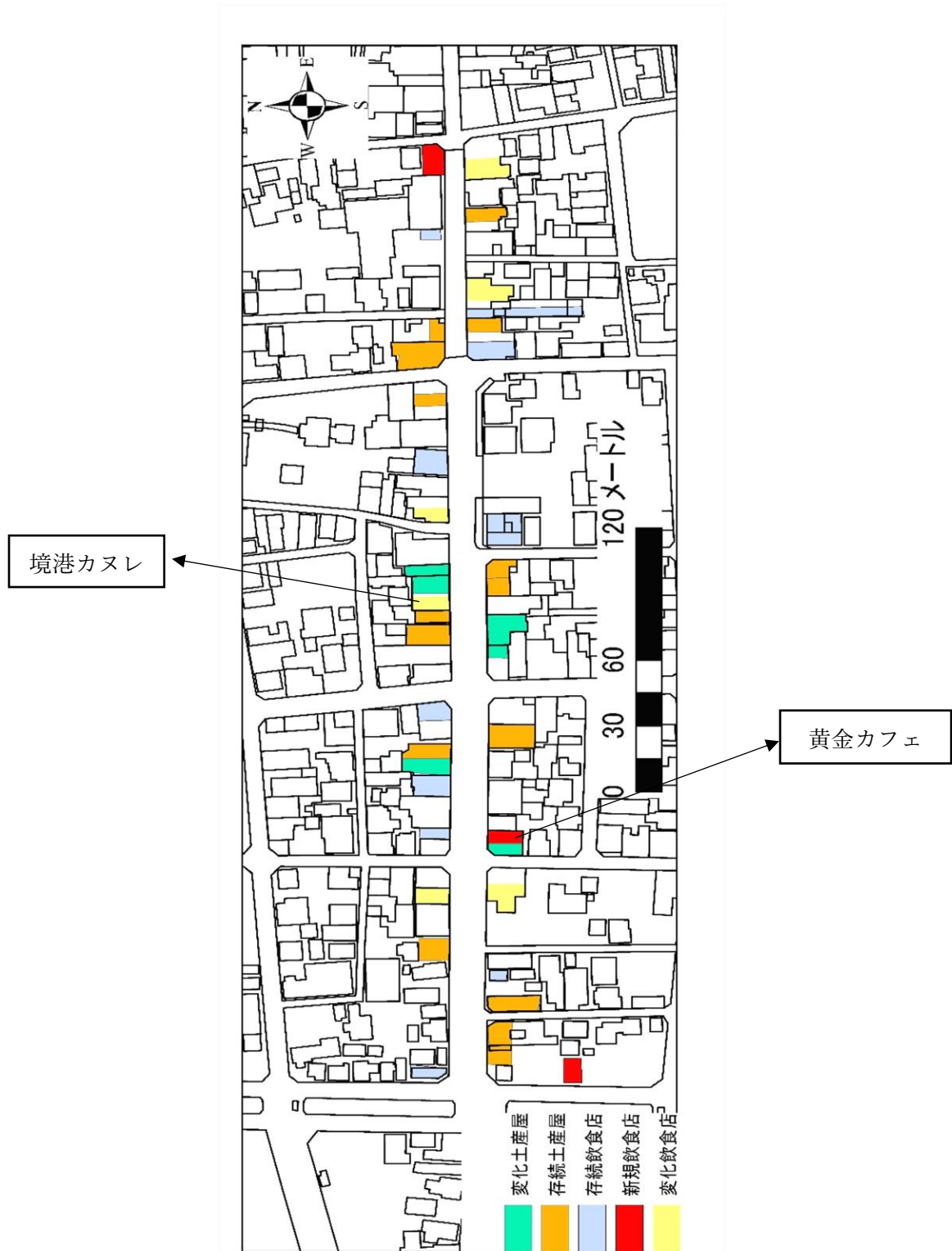


図5 2015年と2021年の土産屋と飲食店の変化
 (住宅地図2015年、2021年境港市及び現地調査より作成)



写真1 黄金カフェの外装
(2021年9月1日撮影)



写真2 境港カヌレの外装
(2021年9月1日撮影)

また、土産物店に変化した所が多いのは図の中央であり、ここが土産物店の激戦地であると考えられる。ここが激戦地となっている要因としては、近くに新しく「境港カヌレ」という若者に人気の飲食店が出来たことによって、お客が周辺に集まりやすく、流れで周辺のお店に入りやすくなるためではないかと考えられる。すなわち、飲食店の新規立地が土産物店の立地に波及効果を生んでいると考えられる。

写真1, 2の店の位置は図5に示したように、対象地区中央に位置している。写真1, 2よりリニューアル後から、黄金カフェや境港カヌレのような若者向けの飲食店が作られるようになった。写真2をみるとシャッターにも「インスタ映え」をするイラストが描かれており、店が閉まっている時に訪れたお客を飽きさせない工夫がなされている。また、聞き取り調査によると、リニューアル前は食べ歩きがメインであったが、リニューアル後は店内でゆっくり過ごすことのできるカフェがメインとなっているとのことである。食べ歩きからカフェに変化した理由として、リニューアル前は水木しげるロードを食べ歩く観光客が多かったのに対して、近年は店内でゆっくりとお茶をしたいというニーズが増えているからだということが聞き取り調査の結果分かった。

5. おわりに

水木しげるロードはリニューアル事業を実施したことで、2019年入込客数が8年ぶりに300万人を突破した。リニューアル事業内容を見ると車道の一方通行化、歩道の拡幅、バリアフリー化など「すべての人にやさしく誰もが楽しめる道づくり」というリニューアルテーマにそった事業が行われていることが分かった。

また、2015年と2021年の松ヶ枝町地区、本町アーケード地区の土地利用の変化を調査、分析した結果、飲食店は2015年に比べて2021年は全体的にまんべんなく立地したことが分かり、土産物店は全体的には対象地域の中心部に多いものの、2015年に比べて2021年は全体的にまんべんなく立地していることが分かった。さらに、水木しげるロード内の飲食店は「食べ歩き」から「カフェでまったり」というイメージに変容しつつあるということが分かった。

土産物店は2015年と2021年を比べると、調査地域の中心地で別の建物から土産物店に変化した店が多く、調査地域の中心地は激戦地となっていることが分かった。すなわち、水木しげるロードの経済的に特に盛んな場所は調査地域の中心地であるということが分かった。

以上のことを調べた結果、水木しげるロードはリニューアルを経て以前よりも幅広い年代が訪れやすい場所となっていることが分かった。

—謝辞—

本稿を作成するにあたり、境港観光協会西垣俊一様、境港市産業部観光振興課門脇俊様にはお忙しい中にも関わらず大変お世話になりました。ここに厚くお礼申し上げます。

－参考文献－

- 境港市「水木しげるロードリニューアル構想」(2014年)
<https://www.city.sakaiminato.lg.jp/upload/user/00102924-WjqZdx.pdf>
(最終閲覧日 2021.12.30)
- しまね観光ナビ HP <https://www.kankou-shimane.com/mag/1563.html>
(最終閲覧日 2021.12.30)

